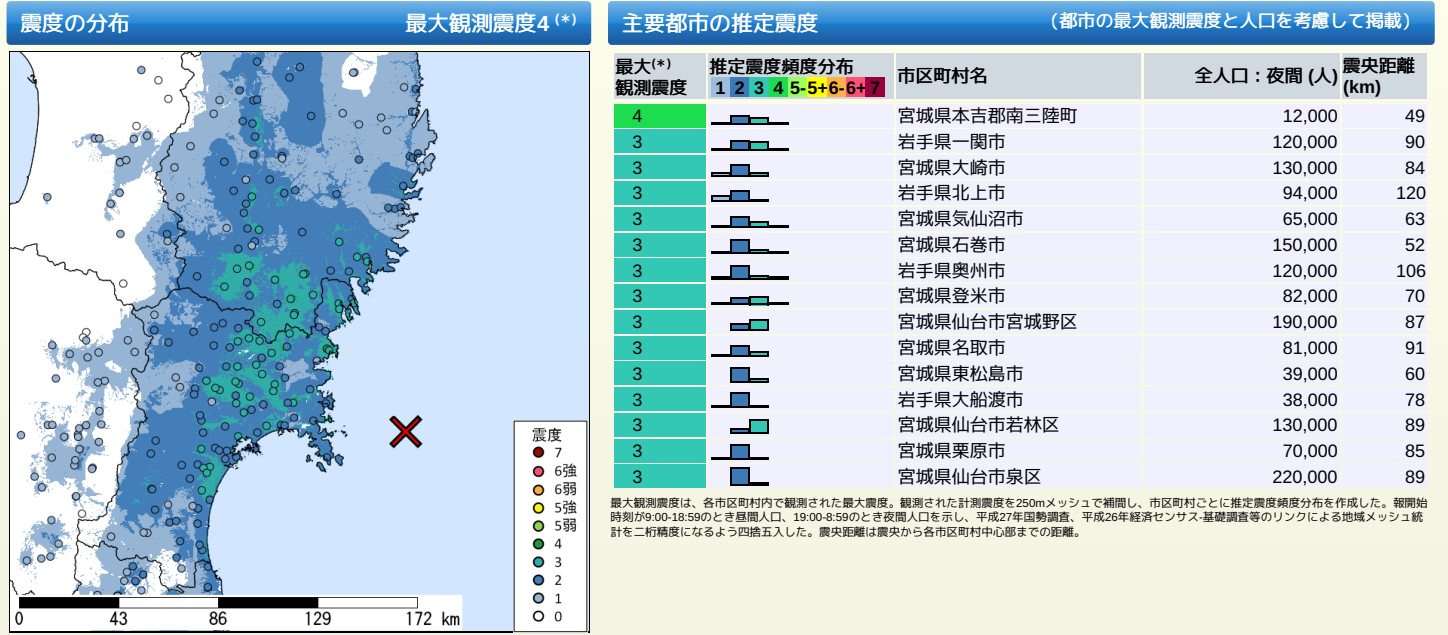
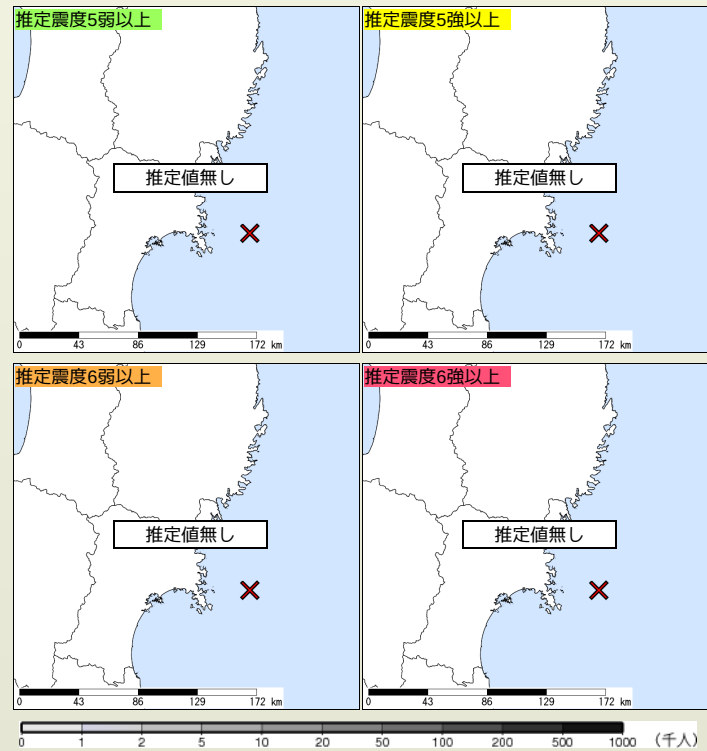


M 4.9, 震源地:宮城県沖, 深さ約60km, 2026/04/04 19:36頃発生 (気象庁発表)



解析開始時点(2026/04/04 19:47:12)で収集されている防災科研K-NET, KIK-net, 気象庁, 地方公共団体震度計の計測震度データを利用。(\*) 気象庁発表の情報と一致しない場合がある。一部正式な震度観測点ではない観測点を含む。暫定的な震度値を含む。丸印は観測、塗りつぶしは推定データ。×印は震央位置。他の図表も同様。

行政区ごとの震度遭遇人口 (各震度階級の揺れに遭遇した人口を考慮して掲載)



震度5弱以上の震度遭遇人口の推定値が無い場合、震度遭遇人口は表示されません。

この地域で起こった過去の主な被害地震

発生年	地震名	M	被害
2003	宮城県沖	7.1	深さ約70kmのスラブ内地震。震央の位置から三陸南地震とも呼ばれる。傷174, 住家全壊2, 半壊21。深いため次の地震に比べ被害は小規模。
2003	宮城県北部	6.4	陸域の逆断層型地殻内地震。同日に大きな前震(M5.6)と余震(M5.5)も起って連続地震と呼ばれた。M6級だが浅く、震源域に局所的に大きな被害が出た。傷677, 住家全壊1276, 半壊3809。3ヶ所で震度6強を記録した。
2005	宮城県沖	7.2	日本海溝沿いや陸寄り(深さ42km)の逆断層型プレート境界地震で、1978年の震源域の南半分が発生。傷100, 全壊1, 半壊0。最大震度6弱(宮城県川崎町)。東北地方太平洋沖で最大13cm(石巻市)の津波。
2008	岩手県内陸南部(岩手・宮城内陸地震)	7.2	岩手・宮城県境付近の山間地での逆断層型地殻内地震(深さ8km)。死17, 不明6, 傷426, 住家全壊30, 半壊146(2010年6月現在)。最大震度6強(岩手県1市, 宮城県1市)や4000ガル以上の加速度などが観測されたが、建物被害よりも地すべりなどの斜面災害が目立った。
2011	三陸沖(東北地方太平洋沖地震)	9.0	日本海溝沿いの沈み込み帯の大部分、三陸沖中部から茨城県沖までのプレート境界を震源域とする逆断層型超巨大地震(深さ24km)。3月9日にM7.3(Mw7.4)の前震。震源域内や付近の余震・誘発地震はM7.0以上が6回, M6.0以上が97回, 死19418, 不明2592, 傷6220, 住家全壊121809, 半壊278496(余震・誘発地震を一部含む; 2016年3月現在)。死者の90%以上が水死で、原発事故を含む被害の多くは巨大津波(現地調査によれば約40m)によるもの。最大震度7(宮城県栗原市), 6強が宮城県13市町村, 福島県11市町, 茨城県8市, 栃木県5市町だが、揺れによる被害は津波に比べて大きくなかった。この領域では未知の規模で、869年貞観の三陸沖地震と1896年三陸沖地震級の津波地震が合わせて襲来したと考えられる。
2011	宮城県沖	7.2	東北地方太平洋沖地震の震源域内の地震だが、太平洋プレートの逆断層型スラブ内地震(深さ66km)。死4, 傷296, 住家全壊36以上, 半壊27以上(消防庁・宮城県による; 2016年3月現在)。最大震度6強(宮城県仙台市・栗原市), 6弱が宮城県15市町村, 岩手県6市町。

出典: 国立天文台「理科年表 平成29年」, 丸善出版(2016)。一部表現を削愛

J-SHISから公表している地震ハザード情報

防災科研が公開するJ-SHISでは、ある地点に対し影響を及ぼす全ての地震を考慮し、その地点が大きな地震動に見舞われる危険度、すなわち地震ハザードを評価しています。(2024年地震ハザード評価)

50年間超過確率2%の計測震度分布

再現期間50000年相当の計測震度分布

